

1978年1月31日

# 談話会通信

No.21

東京蜘蛛談話会

通信内容

菅嶋先生から .....	2
53年活動計画 .....	9
三会合同例会報告 .....	10

通信をお届けして4年目を向えます。通信21号からは編集に松浦さん、蓮沼さんにも加わってもらうことになりました。今年も楽しい通信、読みやすい通信になるよう努力したいと思います。皆様からの参加があってこそなり立つ通信です。よろしくお願いたします。

※本号では 運営委員会 により、12月の三会合同例会を談話室コーナーであつております。昨年から引き続きの観察採集会のとりあつかい予定など報告いたしますのでごらんください。

## 新会員の紹介・住所変更

- ▶ 藤井さんを紹介いたします。三会合同例会のあり入会していただけたけました。女性会員が増えて大喜びしています。

藤井悦子さん 〒272 千葉県市川市・中国分 1-18-20

- ▶ 住所変更：長島さんより住所変更の連絡をいただきました。

長島忠義さん 〒198 東京都青梅市友田町 2-636-5



## 冬の観察・採集会 2月26日(日)

一つの場所をオールシーズンにわたって、観察・採集会を行うという、談話会初の試みも冬と春のシーズンまでになりました。場所は、もちろん八王子城跡です。観察・採集会で一人々が楽しくわかりあえるとともに、談話会としての一つの大きな仕事として、みんなで、八王子城跡のフアウナをまとめましょう!!

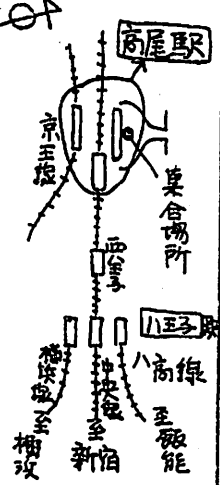
日時：2月26日(日) 午前10時集合

集合場所：中央線高尾駅北口

観察場所：八王子城跡(造形大学方面)

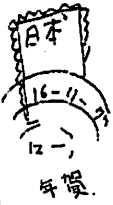
持参物の：昼食(すいじゆ)採集用具、etc

交通：右図 女雨天代行



〈連絡先〉 栗原 輝代子

TEL 0427(96)4416



# きまぐれ ポスター

▶ 萱島先生のご活躍を通信  
でお知らせいたしました。ここで新年  
1月号で先生の記録文を紹介いたしま  
す。じっくりご覧ください。

先日毎日テレビより『野生の王国』にクモ  
をとりあつかうようになったので、ハネアウンサー  
と対談してくれないかとの電話があった。  
放送局に行ってみると、アメリカのクモの研究家  
ジョン・ワック氏の作品でして、立派にクモの生態  
をとらえている貴重なものであった。

ワック氏はアメリカ大陸を中心に南太平洋の島  
をクモを専ら撮られている。またヨーロッパ  
からも材料を取り寄せ、実際に飼育してこれを  
何年もかけて撮っている。だから私共がめだ  
に見ることの出来ない場面がふたふたに出て来る  
全く感激してしました。あまりにすばらしいので、  
一回にわけて放送することになった。第一回は11月  
9日、第二回は11月11日、いずれも金曜日の午後  
7時30分からである。

前篇を解説すると、まずキレアミグモが登場する。  
このクモは英国産のもので、ブルース大王を産ませ  
させたとして、英国の教科書にこのキレアミグモのキレ  
アミが載っている。このキレアミグモが餌物をとると  
ころが出る。次にエニマグモが出てくる。Segestria属  
のものとして説明がついていた。見たれないクモであ  
ったから面白い。私共のミヤグモも、くりにある。

次にサラグモが出る。次にジグモが出てきた。  
全くよく撮れている。しかしつてBBCで撮映した  
ものと全く同じであった。次にヒメグモの登場と  
なる。これはNHKの『山寺のクモ』の方がよかった。  
次に私共には珍らしい Stegodyphus属(17ガサ  
グモ属)が出てくる。群集生活の様子がほんと  
によく出ていた。次はおなじみのツヨウグモで  
アンナガバチと巧みにとらえられたのは驚いた。次に  
Thomisus属のガサミグモが出てきた。このガサ  
ミグモのしぐさは、私共の参考になる所が多くある。  
是非とも野外で、私共もかかを見なければは  
いと思つた。次に Euophrys属(イナズマハエトリ属)  
のものの登場である。次がゴモリグモの求愛  
動作で、いずれも場面が短く、全くのまごころい

そうし一場面を長く撮映してはしかなかった。次に  
ツユグモの交尾が出てくる。これは良く撮れたい。  
終りの場面はタランチュラの求愛動作と交尾の  
状態であつて、これもほんとうに良く撮られていた。  
撮映技術のすばらしさに見とれてしました。

## 後篇

タランチュラの交尾のつづきが出たしてあつて、

ハツリグモのすばらしい生態が次に出てくる。  
池でハツリグモが餌を捕える様子も、ほんとうに  
見せてくれた。先ずトビゲウを捕えるところか  
らはとまる。水の上で、中で自由自在である  
のには驚いた。次に魚を捕えるところが出  
てくる。ほんとうにうまくやる。見ていて思わず、  
拍手をしてしました。次にミスグモが出てくる。  
このクモはあまりにも有方であるからいろいろ  
の映画で見ていた場面ばかりであつたが、一般  
の人々は、き、と、びっくりすると思つた。

次にキツダグモが出てくる。産卵状況を  
よくとらえていた。次にゴモリグモの子グモが  
母親の背面に、鈴なりになつてぶらさがら  
てゐる姿はよく撮られていた。次はリユグモの  
脱皮の様子であつた。

それから場面は、ジョン・ワック氏の研究室  
となる。仲々立派な研究室であるので、うら  
やましいと思つた。

ワック氏は、タランチュラを手のひらに乗せて、このク  
モは恐いものではないと説明する。しかし次に  
出るクロゴケグモには注意をしないといふ。  
次に American Brown Recluse が一寸画面  
に出る。これと夢が、をいしたものでないこと  
を強調される。次はタランチュラとヘッコウバチ  
の暗夜の決闘の場面である。これもよく撮  
れているので、感心した。

最後はジョン・ワック氏に、世界で最も奇抜な  
クモは何かと質問した時に、ワック氏が即  
座に答えたのがメダマグモである。トリニダ  
ドに出かけて撮映したものが出てくる。

全篇を通しての傑作である。一見にあたいする  
数々の場面が出てくるのである。このクモは  
自分で作、た網を前の4本で、ち、子供がする  
綾取りのように、ひづけて、それを持ちながら  
尻のどどところまで下りて来て地面を這、て  
来る虫を待つのである。(夜間)虫がくると、  
この網を虫にかぶせるのである。網を投げる  
のではない、昼間は木の枝のように、ぴん  
と体や足をのばして枝に、はりつづるのであ  
る。よほど注意ぶかくさかされねば、誰でも見  
けることは出来ない。



▶鈴木勝浩さんから  
全日本学生科学賞での小学生  
のクモの研究の記事をいただき  
ました。談話会会員の皆さんがニバリウ

『くもの研究』浦和市立文蔵小「作間  
節子さんほかさん」

○クモの名前の由来と伝説。  
クモの語源は、くもるからきたといわれ  
じつと身をひそめ虫をとり性質からで。  
クモは約4億4千万年前の中生代デボン  
紀から栄え、現在では北極・南極を除  
いて、熱帯から寒帯までの世界各地に  
約3万種にのぼる。この研究では学校の  
まわりにならんでいたクモ、ツヨロウグモ・オ  
ニグモを中心に研究をすすめた。  
祖母は『朝グモは福グモ』『夜グモは親に  
似ていて殺せ』という話を教えてくれた。  
また生れが九州の母は、夜のクモは『ヨロ(夜)  
コブ(方言でクモのこと)』といって夜のクモは  
縁起のいいことだと話していた。地方に  
よってクモと人々の結びつきがちがうのだ  
と思った。また日本の民話の中にも  
土蜘蛛の伝説などがある。そしてクモ  
は弱々しい大きな網を張れば、明日は  
無風で日本晴れという話もあると聞き、  
研究をすすめた。

○研究観察の結果

2. ツヨロウグモ オニグモのメスの糸の  
長さが突如とでわかるように30~90  
cmもあり、非常に長いのでびっくりした。
3. ツヨロウグモやオニグモの巣をみて  
いると、その網が西や東を向いて張ってある  
南北に張ってあるのがほとんどので、夕方など  
西に沈む太陽に遮る虫をとらえるため  
ではないかと考えてみた。
7. クモの観察を続けて、1・2日である  
場所に急にクモが網を張った(奥岸発生)  
天気も良く、湿度もあまり高くない。

(研究発生のもののみです。結果は1・8まで)  
(おまじが、あつちえ、3.7とかきました)

・クモの各地方でのよひ名の違い。また地  
方でのクモに対する考え方の相違、1・2日  
ある場所に急に網を張った、などおもしろ  
いことと思います。(1・2日で急に網を張った  
クモ、仔クモではないとおもいます。なぜな  
ら資料であるノートに9月観察『ツヨロウグモ

とありました。

▶蜘蛛の詩



鈴木勝浩さんより

いただきました。

『蜘蛛』

忍耐強いしずかな蜘蛛  
蜘蛛はひしり小さな突角にうずまり  
身の大きな空間をはかりうべ  
身の内から糸・糸・糸をくり出し、  
絶えず延べほごし、  
絶えず休まずひろげてゆくのを私は見る。

そして汝、わが魂よ、

汝の立つところ

無辺際空間に取りまかれながら、

絶えず考慮し、冒険し、突進し、

ひろがる世界をたずねてそれと結びつけ

遂に汝の欲する橋を架け

遂にしなやかな鎧をおりし

遂に汝へ投げる細糸で

いすこかを、おあわが魂よ、

たしかに捕えるよ、

ホイットマン『草の葉より』  
橋のな川 巻4、蜘蛛

▶談話会の神様

岸田久吉先生の原稿を

新海栄一さんよりいただきました。

『農業たより』“タニへ話 40”より

談話会会員必読 //

問、第一には距離の感受の問題  
に、触れてほしいのですが……

答. 元来、機械的感覚の要訣といふべき点は、多くはないのでして、体部の運動とか、直接、外部の物体との触接とかを知る事が、一般的な課題なのでございます。

万一、媒体が、圧力の波を伝えてくるならば、離れた、遠くの物体の運動も、知ることが可能になる訳でありましょう。

ダニ・ガトウムジ・クモの触角(ペツパルプ)昆虫の触角(アンテナ)、イヌネコ、イサのいわゆるひげ(ハイブリク)は、或る意味では、距離感受器(ツスタンス・リセプサ)などでございます。

離れた振動の本源は、いろいろの種類の機械感受器によって、見つけられるのです。ハシリクモやハイトリクモは、頭胸部の位置を色々に変えて、害敵とか、食餌動物を見つけます。

この際、視器であるところの単眼が、機械感受器の用としているのです。ところが、ハシリクモ、蜘蛛であつても、

丸網を張るところのオニグモ・コガネグモ・ツヨクウグモ……などでは、単眼は、たしかに具わつてはいますけれども、食餌動物発見には、役立たないのです。コガネグモ・ツヨクウグモは、網系の揺れるのによつて、脚端と触肢とで食餌動物のかかったか、近すいたか……などを知るのです。

また、オニグモでは、曇つた時や夜は、その模倣的な丸網上に於いて、コガネグモやツヨクウグモより、他動物も発見するのであるが、更に、今一つ別の方法によつて、食餌動物などを発見しております。それは、「中こし」と呼ばれる、網の中央の粘性の無い所の中心から、信号糸(シグナル・スレッド)と云う、太くて強い糸をひいて、自分の隠れ家におり、間接に、網の動揺を感知することなのであります。

問. オニグモの場合には、珍しいことでございますね。

答. 左様です。存外、世間の人々は、御存知無きようです。白昼、

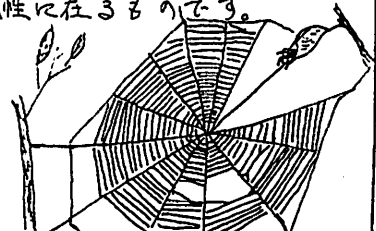
自分の隠れ家にて、休んでいようでありながら、いつもの場にかかると、チョウやトンボなんかを、急に、かけ出して来て、つかまえるのでございませう。

問. ダニ・クモ・昆虫など節足動物の固有感受器と云えば、それは、主として、感覚毛(センillum)だつたと思つて居るのですが、それならば、振動に対して、相当に敏感であるべきだと断定されそうだと想像します。実際は如何でしょうか? 伺いたたいものです。

答. 全くお考えの通りです。感覚毛は、相当に、強く、かつ、非常に、振動に対して、敏感なのです。節足動物の体面や附属肢に、多く配賦されているところの、感覚毛は、形態的にも、生理的にも、はたまた、分類学的にも、よく重視されるべきものなのでございませう。

問. 次に、機械的刺戟に対する、直接の感応に、種類がございませうか?

答. 直接感応は、いくつもの種類を有つて居るものです。多くの動物、特に、はう動物と云ふものは、趨触性(ツグモタキンス)が強く、狭い隙間のような所に、群集する性質のあるものです。この反応の結果として、動物は、保護的な避難場(プロテクティブ・ニッチ)に辿りつけます。ダニにも、著しい例がございませう。リンゴハダニには、3-4種も、地方によつて区別がございませうが、彼等は、寒季が来ると、幹の皮目とか、或は、葉の落ち去つて、まだ堅い芽の辛うじて見付かるような所に、各種毎に群集し、互いに押し合うような混雑をくまふ。考え方によつては、「一種の壮观」を呈する次第でございませう。これも、群集の直接の階梯は、趨触性に在るものです。



# 「越冬蜘蛛の観察」

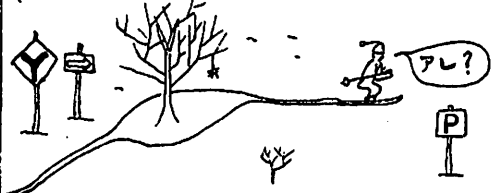
を佐藤幸子さんよりいただきました。

昭和57年12月25日  
 田中理恵さんに、越冬蜘蛛の観察を  
 と、背中をどやされたので、信同例  
 会から帰ってからすぐに心あたりを  
 見てみました。場所は玄関です。10  
 月中旬お客が大勢見えられたので、  
 スリッパが足りなくなるとして、お  
 スキの大箱をあけてみると、その片隅  
 に何時の間にか仔グモが住居をこし  
 らえて、ひそやかに生活をしていま  
 した。あまり小さくてゴミがひ、か  
 かって見えないのに、一寸息  
 をふきかけると、気にしてモゴモゴ  
 動きます。忙がしかったのでそのま  
 まふたをして今日になりました。  
 まだいのかどうかをわからず、期待  
 半分あきらめ半分でソットふたを取  
 って見ると、イタイタノと同じ所に  
 ナマイきにも食べかすヤフンと下に  
 散らして元気でいました。オオヒメ  
 グモの仔でした。けれどニケ同過  
 ているのにもかかわらず、とて成  
 長がおそろむ様です(0.5mm)。場所  
 が場所だけに、食物が少なすぎるせ  
 いでしょうが、それでも虫ミミの様な  
 生物が網にかか、て動いていました  
 ・(気温最高13℃最低5.2℃湿度47%)

12月26日  
 昨年、バラギヒメグモが越冬してい  
 た場所に行、て見ました。びくり  
 したことは、昨年とちがって楯(  
 丈1m)のそばにすわ、て見ただけで  
 三匹見えるのです。肉の厚いそりが  
 え、た葉の裏に一寸した糸を張、て  
 その中に一匹、ハエトリグモの寝袋  
 の上に一匹、上の行まだコケコケの  
 新葉のわきに一匹、今年はやはり暖  
 かいのですね、昨年ハ三倍位の成長  
 度で、それを三匹共に、腹部左側上  
 部に0.5mm位のウヅを着けていま  
 した。あまりかわいそうなので、一匹  
 つれて来てピンセットで、ウヅをつ  
 ぶしてやりましたが、その作業のむ  
 づかしい事……。

楯のとなりのお茶の木(丈60cm)には、  
 昨年と同じ位の成長度のバラギヒメグ  
 モがいましたが、それには何も寄生し  
 ていませんでした。  
 (気温最高10.5℃最低3.4℃湿度20%)

12月27日  
 比較的高めのアオキ(1m20cm)を見て  
 みました。アリグモの寝袋が一個。  
 葉を半分だけ巻き込んだ中に卵のう  
 発見。バラギヒメグモが二匹、内一  
 匹にウヅが寄生。それからウロコア  
 ミナがグモの仔が、元気に糸を垂れ  
 てぶら下、ていました。昨年2月の  
 寒い雪の朝、他の蜘蛛たちは、仲間  
 の脱皮がうやがみなど首を頭からかぶ  
 って、一寸したくぼみや謎かのど  
 卵のうの女とちごま、てい、るの  
 に、葉の枚の裏にべったりと張りつ  
 いてがこぼ、ていた蜘蛛です。  
 (気温最高14.0℃最低1.1℃湿度24%)



12月28日  
 マーガレットの株をあげてみました。  
 ウヅコモリグモの仔グモがおりま  
 した。いつもなら素早く逃げて行  
 くのに、非常に動きがにぶくこわ  
 ともそんなに走りません。それからど  
 こをあげても、エサをすれに網が張  
 っている、よくしらべますと、  
 トウキョウアカムネグモが御夫婦で  
 仲良く任んでおりました。どの網に  
 も蜘蛛一対づつ居りまして、肩をよ  
 せあって春を待、ているよう感じ  
 でした。  
 (気温最高9.4℃最低1.7℃湿度25%)

12月29日  
 トリトマの株を見てみました。アヤメ  
 の様に長い葉がじゃまなので、土面  
 すれすれにザックリ切、たのですが、  
 そのまま葉は土の内に深々とこし込  
 まれて、やはり蜘蛛の網が見られま  
 す。まず出てきたのが、コモリグモ  
 の仲間、ヘリツロウグモの亜成体

雄二匹。イオウイロハツリグモ。ツ  
モフリヤチグモ。ヤミイロカニグモ。  
キハダカニグモ(一種)です。オトヒメ  
グモ。ザラアカムネグモ。トウキョウ  
アカムネグモの三種は沢山いました。  
(気温最高 15.1℃最低 0.3℃湿度 44%)

12月30日

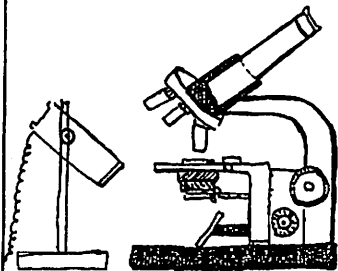
チューリップの球根を保護するた  
めに秋刈取、た草と沢山のせておいた  
所を開けて見ました。トウキョウア  
カムネグモがニ夫婦と。ウヅキコモ  
リグモの小さいのが沢山いました。  
大王コモリグモが元気に逃げて行  
くので。追いかけて行きましたら。  
フチナツの株の中に入りました。と  
ころがそこに網を張って獲物を待つ  
ていたのが。ヘリツロサラグモです。  
(地面より50cmの所)此の木には突に沢山  
のヘリツロサラグモ更成体雄雌がい  
ました。幼生もいました。木株の中  
央にツグモの袋がありましたが。ひ  
ろりしていて住んでいるのかどう  
かわかりません。

(気温最高 17.8℃最低 6.6℃湿度 46%)

12月31日

今日は朝から雨小り。物置を開けて  
見ました。突に沢山の卵のうが一  
人に眼の中に飛び込んできました。  
扉のチョウツがイにまほうみつけら  
れてあるのです。この分では春の解  
化期には。物置は蜘蛛の仔だらけに  
なる事と思います。けれど。ハエト  
リグモの寝袋も沢山あり。オオヒメ  
グモも沢山いますので。たやられて  
しまう仔グモも多し事でしょう。

(気温最高 11.6℃最低 6.8℃湿度 86%)



## ▶ ミズグモの生息地が判明? 場所は山形県!

佐藤幸子さんからいただきました。

先日、新海さんが、ミズグモは日  
本列島の日本海側にいる可能性があ  
る。と云っているのを聞いて。何か  
遠い昔に一寸気になった事があるの  
を思い出し。郵帳を引っぱり出して  
みました。

昭和52年8月10日(木) NHKテレビ  
夜7:30 スポットライト『語郎(かた  
ろう)の昔話』佐藤孝一、真壁仁、武  
田正ほか〜山形県上山市橋下。  
これは。昔から口うつつしに語りつた  
えられて来た此のあたりの昔話のい  
るところ。困りばたで大人や小供  
達に聞かせる形武のものでしたが。  
その話の中に『昔、此のあたりに  
ミズグモが多くいた』という言葉が  
ありました。  
大変おもしろい話になりましたが。と  
にかくお知らせいたします。

※ まだまだ寒い冬が続くそうですが  
春が来て雪がとけてきたら。山形  
方面へ出かけてみてはいかががでし  
ょうか。ミズグモも談話会の皆様  
に探していただければと思います。  
(松浦)

## ▶ ツヨロウグモが越冬!!

松浦祐司

1月24日。学校の農業実習で厚木  
の農場へ行った時に一頭採集しまし  
た。雄の更成体です。これは。1月  
10日の実習の時に。蓮沼君が見つけ  
たもので。この時は雌の成体がもう  
一匹いたのですが24日の時には見あ  
たりませんでした。彼女は軒下でな  
んと40cm程の網を張って元気にして  
いたのです。ツヨロウグモが年をこ  
して生きているなんてとて信じら  
れませんが事実です。現在は私の机  
の上で生きてます。(多少弱ってきて自  
分の糸をつまづいたりしています 1/31日)

▶ 小野さんから

ドイツの小野さんから いただいた ハガキの一部です。  
下の英文とともに 写真を紹介します。

英国博物館(自然博物館)

コハクの中の化石

ペンダントとして はめこまれたバルトコハク

で、これができるとき、7センチ、とらえられ

たキリキリスがぶくまれている。

実際より2倍の大きさ。348万~342

百万年前のものです。(このような内

容だと思いますが、良いやくそつかけれ(ばせ)

British Museum (Natural History)

Fossils in amber

Baltic amber (fossilised resin)

mounted as a pendant and

containing a spider and grasshopper

trapped when the resin was

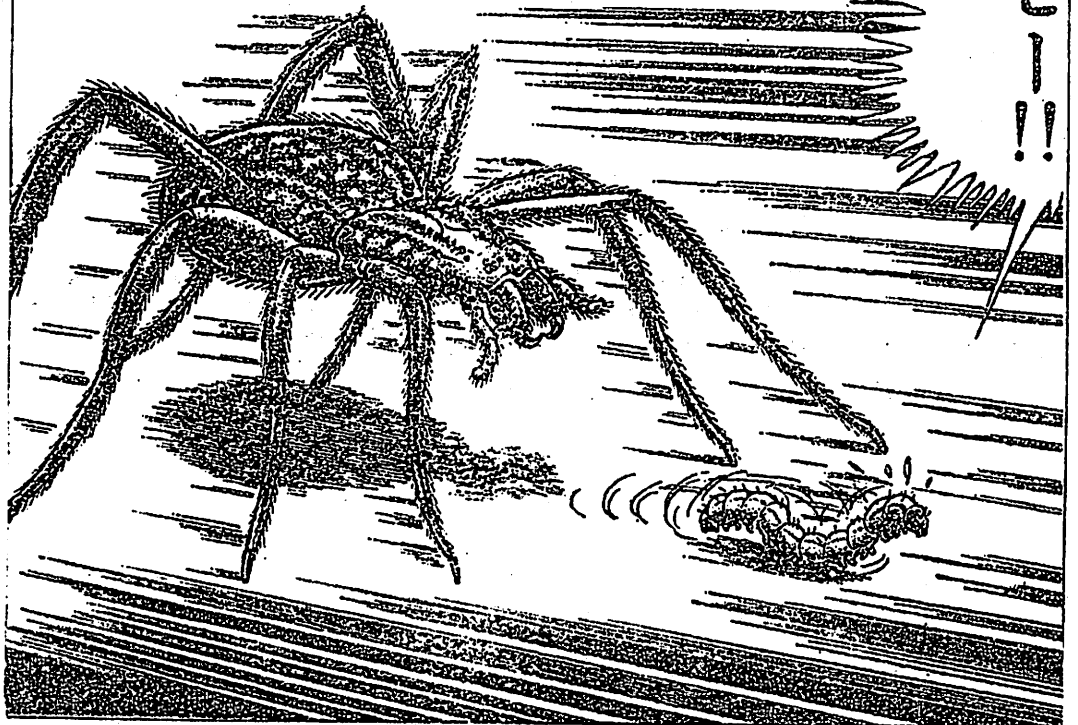
formed. About twice natural size.

38-32 million years ago.



▼ 楽しいマンガの、びとコマ

このころ マンガの中にも アモたちが登場してきます。これは、  
熊田憲一さんからいただいたもので、少年サンデー「まことちゃん」の「コマ」。



# 談話室

12~1月にかけては会の活動関係の報告が多くなります。それにフけておえて、今回はトビックスがあります。

## ▶ 九州クモの会ができる!

日本各地で皆さんががんばっています。ついに九州にもクモの会ができました。吉倉さん・大熊さんを中心、九州の報告がさらに詳しくなされることと思います。談話会のみなさまもぜひどうぞ。

事務局：〒812 福岡市東区箱崎 九州大学農学部昆虫学教室内  
52年度会費 1000円 (会計年度：3月31日まで)  
(53年度会費についてはわかりません。)

※ 詳しく知りたい方は、事務局に問いあわせてみてください。

## ▶ 新潟・三重

おくれはせながら、新潟クモの会ができましたことを連絡いたします。昨年春にできたとのことです。夏の東亜蜘蛛学会大会にて、活動の話を水沢さんがしておられました。

三重でも見<sup>かいほう</sup>登さんを中心にごんばつておられるとのことです。会誌「しのびクモ」には、松本さんの投稿もあります。

※ 新潟：長岡市曲新町3丁目 長岡農業高校生物教室、Tel. 0258-32-0979 新潟県蜘蛛研究同好会  
三重：〒510 三重県四日市市河原田 四日市農業高校内 三重クモ談話会

## ▶ 八木沼博士より「1万円」

12月25日 三合同例行会が、目黒区大塚区民会館で開かれました。当日八木沼先生も出席される予定でしたが、都合により出席できずでした。「私が出席していれば、もとかかるのですから…」と、10,000円三合同例行会あてに届けてくださいましたので、皆様にお知らせいたします。先生に厚くお礼申し上げます。



## 一 談話室 -

- 〔 運営委員会報告 〕
- 〔 三会合同例会報告 〕

## ▶ 運営委員会報告

1977年12月25日三会合同例会後、目黒大橋区民会館にて運営委員会を開き、以下の内容を討議、決定しました。運営委員10名のうち萱島先生が残念なことに御都合が悪く出席できませんでしたが、大かたの出席で7時すぎまで話し合いが続けられました。以下に決定事項を報告します。なお未定事項については次回運営委員会にて討議し、報告いたします。

### ■ 今年度活動計画

- 標本同定会：未定（討議中）
- 観察・採集会予定：
  - 冬：2月26日（日）八王子城址  
〔 実行委員長：栗原輝代子 〕
  - 春：5月21日（日）八王子城址  
〔 実行委員長：新海栄一 〕
  - 夏：7月30日（日）巾着田  
〔 実行委員長：田中理恵 〕
  - 秋：10月8日（日）巾着田  
〔 実行委員長：山島田順一 〕
- ※ 54年冬春巾着田の予定
- 例会・総会：6月18日（日）  
目黒区立大橋区民会館  
〔 実行委員長：高橋登 〕
- 夏の合宿 8月上旬
- 合同例会 未定 12月

### ■ 発行関係

- 通信発行：今年度5回発行  
内2回分はKISHIDAIAと共に発送する。  
〔 係：田中・松浦・蓮沼 〕

- KISHIDAIA  
今年度2回発行予定

〔 係：熊田 〕

### ■ 会費

- 53年度は1500円
- 54年度……改良予定

以上が検討内容です。幾つかの点で気になる事項があり、説明したいと思います。

1. 観察・採集場所が昨年の夏・秋におこなった場所とかわっていない。さらに今まで行なわれていなかった冬の観察・採集会が予定にくまれたことについて：

今までは観察・採集会ごとに場所をかえていきましたが、このへんで一ヶ所にしぼってみてはどうだろうという意見がまとまりました。同じ場所を季節を変えておとずれてみるにより、何か個人で、全体で得られることがあるのではないかと考えたからです。そこでまず八王子城址を、次に近くなるといわれている巾着田を調べようということになりました。

2. 通信発行が今年度は5回になったことについて

今まではほぼ年6回の発行できたわけですが、今年度は郵便の現状(送料費ということです。)から考えてどうしても6回は難しくなっていました。やはりKISHIDAIAも大七にしたいということで5回になりました。KISHIDAIAと同時発送という事もありますのでご了承ください。

= 以上 = (運営委員会報告)

### ▶ 三会同例会 - 第6回 - (田中)

昨年12月25日目黒区立大橋区民会館で第6回三会同例会がありました。忙しい時期でしたが前回の参加人数にもおとらぬ40人前後の参加があったようです。新しく参加された方、産後なじみの方一同そろって自己紹介の順を気にし(気にしていたのは私くらいかもしれませんが)他の方の自己紹介に聞き入り、楽しい午前をすごしました。昼食をばさんで発表に移りました。

三会同例会らしくクモ以外にサトウムシ・多足類茶茶楽(ササラ)会からの発表がありました。勉強不足なので新しく知ったことからもあります。それとともに感じたのは、クモをやっている人の中にも、日常観察の中でクモ以外の生物についてもずいぶんみてきている〴〵ということです。

たとえば、佐藤さんが発表されたサトウムシの「捕食」(題名はちよと気遣いがないのですが)についての質問のあり、サトウムシを研究しているいがいの方から観察例が出されました。サトウムシが「ミス」にかみついて食べていた例、フナムシを食べていた、セミを食べていた等です。

野外に出ている人は何らかのものをつかんで来るようです。たいへん免ちる虫になった一日でした。まずは簡単ですが報告を!

# げじばん

## ▶ 会費:

53年になりました。会費は52年同様、1500円です。おはやめに納入下さい。

※ 振り込みを利用される方へ、

東京ア-74885

東京虫知蛛談話会

[国分寺市本多郵便局 扱]

※ 郵送される方は事務局へ、

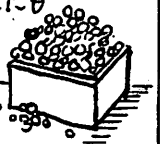
東京都国分寺市本多1-6-6

シニカイ写真館内(新海栄一)

▶ 自己紹介をおまわしております。

立春はすぎたというのに春風がなかなかやってきません。それでも植物たちは季節の変化を確実に教えてくれます。瑞穂の田舎でも梅がさきはじめました。クモたちの動きも追ってみようと考えております。

今号から蓮沼さんや松浦さんにも参加していただき通信を送るようになりました。1人で行うよりも内容に厚みが出ると思います。次号は33号。(田中)



## 東京蜘蛛談話会

- 通信 21号 -

本部:

〒191

東京都日野市豊田1896

萱山鳥 泉方 TEL 0425(81)7128

発行責任者(通信原稿受付)

〒190-12

東京都西多摩郡瑞穂町武蔵41

田中理恵 TEL 0425(57)0355